

〔研究ノート〕

青海省循化県のムスリムにおける 葬儀について

——「ゼロコロナ」時期における変化を中心に——

馬 志 婧

目次

はじめに

第一節 葬礼用語（音訳）

第二節 遺言

第三節 着水

1. 亡くなった当日に

2. 使用する水の注意点：

3. 手順：

第四節 埋葬

1. 墓室について

2. 埋葬する手順：

3. 唱える内容：

4. 葬礼の融合

第五節 亥亭

1. 亥亭の期間について：

2. 亥亭を行う理由：

3. 亥亭のやり方と料理：

第六節「ゼロコロナ」時期の変化

はじめに

中国西北地方にある青海省循化県で暮らしているムスリムの葬礼は、死者を見送るのみではなく、①死者の生前の罪をアッラーに赦免してもらうこと、②葬礼に参加することで自分自身の罪を赦免してもらうこと、

という二つの目的で行なわれる。

本稿は、まず、青海省循化県で暮らしているカディーム派の回族とサラ族の葬礼について紹介する。続いて、中国政府による「ゼロコロナ」政策の影響で、循化県のムスリム葬礼がどのような形で変化しているのかについて分析する。

最初に、よく使われている葬礼用語を説明する¹⁾。

第一節 葬礼用語（音訳）²⁾

1. 亡人（ワンレエン）：亡くなった故人のことを指す。
2. 无常（ウーチイアン）：死去すること。漢族と同様に「死」という表現を忌避する。「去世」「逝去」などの言葉も使ってはいけませんが、当地のムスリムの言葉が通じていない非ムスリムには「去世」「逝去」などの言葉で伝える場合がある。
3. 帰真（グイージェン）：无常と同じ意味。アッラーの中国語訳は「真主」で、アッラーの所に帰るという意味である。
4. 盖尔麦提（ゲイヤメーディ）：イスラム終末論で言及される「審判の日がくる兆し」「復活の日」「審判の日」のことを含めて³⁾盖尔麦提と呼ぶ。
5. 都哇（ドゥワー）：普段は「接都哇」という形で使う。ドゥアーには、
① イバーダ（崇拜行為）としてのドゥアー、② 嘆願としてのドゥアーの2種類がある。
6. 摘麻提（ジェマッテ）：原意は同じモスクに通じている人のことを指すが、今では遠い親族や近所の人も含む。
7. 着水（ズアスイ）：亡者を清浄すること。

1) *カタカナで音訳したのは循化語の発音で、マンダリンの発音ではない。

2) 本来はアラビア語とペルシア語などから音訳のままで使用しているので、中国語で直訳することができない単語は多い。

3) すべての人間が死からよみがえり、永遠を天国で過ごすか地獄で過ごすかについて神によって裁かれる時。

8. 拜毡（バイザアン）：礼拝用のマットのこと。普段はこのマットで礼拝するが、ほかにもいろいろの用法がある。たとえば着水する前に、故人の裸身に拜毡をかぶせ、親族が最後の対面をするために、挨拶する時は、顔だけ見せる。
9. カ凡（カファン）：モスクまたは病院で同性の親族、あるいは専門の業者が遺体をきれいに洗浄すること。洗体が終わると鼻の穴などに綿を詰め、遺体を白い布で覆い、手、足、頭を縛る。男性は3枚の布、女性は5枚の布で包む。本来は、この作業がカファンと呼ばれるが、青海省のムスリムはこの白い布をカファンと呼ぶ。
10. 乜提（ニェティー）：心からの願いや願望、決断という意味であり、通常は貧者への施しや宗教的慈善活動への出資によって自らの善行を顕示する行為を指す⁴⁾。遺体を運ぶ前に、遺族から葬送儀礼の参加全員に喜捨する金が「乜提」と呼ばれる。喜捨する行為は「散乜提」と呼ばれる。
11. 如海（ルイハイ）：故人の霊魂、魂を指す。
12. 塞瓦布（セワブ）：攬（攬）（ラン）という動詞と一緒に使い、塞瓦布を抱き寄せるという意味がある。塞瓦布は「報酬」、「幸運を与え褒めたたえる」、「恵み」、を意味する。ムスリムの善行に対するアッラーからの報酬を指す。「この世の報いを望む者にはこの世の報いを与え、来世の報いを望む者には来世の報いを与える」（クルアーン 3：145）。意味としては、すべてのイスラム教徒はこの世界でアッラーを熱心に信じ、定められた宗教的課題を行い、善を促進し悪を阻止し、より多くの善行を行ったら、後世で報酬をもらい、幸せになる。中国のイスラム教徒が日常生活でこのフレーズを使用する場合、お互い同士の感謝を表明する。「どういたしまして」の代わりに「あなたの善行で、アッラーからあなたにも後世の幸せをもたらすように祈ります」の言葉を使用している。

4) 今中崇文「『共生』のために守るべきものとは：中国・西安市の回族による宗教実践を事例として」、『境界研究』, 5, P161, <https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/61167/1/06Imanaka.pdf>。

13. 埋体（メイディ）：故人のことを指す。送埋体：故人の遺体を墓まで運ぶこと。下埋体：埋葬の儀式をすべて終えること。
14. 者那則（ゼンナゼ）：故人と最後の礼拝をすること。「站 者那則」（者那則のため立つ）で使う。
15. 後世（ヘーシイ）：死後の世界のこと。「葬送礼拝⁵⁾をする目的は、葬儀参列者全員で死者の生前の罪をアッラーに赦免してもらい、死者が来世で平穏な生活を送られるように祈念することにある。」⁶⁾だと言われるが、実は循化県のカディームは「来世」という言葉を使わず、「後世」という言葉を使う。なぜなら、「来世」というのは、輪廻して、胎児としてこの世に生まれ、再び生きることを指すからである。一方で、「後世」というのは、亡くなった時から墓に寝たままでいる魂が、盖尔麦提の審判を受けて入る、地獄または天国に入った後のことを指す。しかし、埋葬されている途中から、すでに天使によって、その人の罪に対する審判が始まるという説もあり、また、盖尔麦提が訪れてから審判されるという説もある。
16. 湯瓶（タンピン）：中国西北のムスリムの間で使われている容器である。大淨⁷⁾と小淨⁸⁾をするときに使う。プラスチック製と鉄製の二種類がある。
17. 者拿咱（ゼナザ）：墓園まで遺体を運ぶ金属性の担架のようなもので、通常はモスクから借りる。
18. 水撐／水床（スイシン／スイチウアン）：着水する時に遺体を置く寝

5) 者那則のこと。

6) 澤井充生『現代中国における「イスラーム復興」の民族誌』、p314。

7) グスルである。大汚れ（性行為の後、生理終了、出産の出血の後、死亡した後、イスラム入信よりムスリムになった時）の時で、全身を水で洗うこと、沐浴することである。一回したら、次の大汚れまで有効である。

8) ウドゥーである。イスラムの清めの作法で、礼拝または巡礼の中のタワーフを行う前に、水を用いて手足頭など定められた箇所を洗淨することにより達せられる。アッラーと向き合って行を行うときに、清められていること（グスルとウドゥーをする）が条件とされている。ウドゥーしてから、次の尿便、放屁、嘔吐、睡眠、流れる出血と大汚れなるまでは有効である。

台のような金属製のもの。

19. 討白（トオバイー）：悔悛、悔い改めることを指すが、人が亡くなる前に、アホンがその人の隣で「悔悛文」を暗唱しているときに、本人が自分の罪を告白する。この悔悛文のことも「討白」と呼ばれる。
20. 口喚（コウホアン）：遺言、承諾、許可のことである。亡くなる数日前に遺族に伝える言葉と他の人に許可を与えることも含む。「給口喚」⁹⁾（許可、許しをあげる）という形で使われる。
21. 坐夜（ズウオイエー）：亡くなった当日に埋葬できなかった場合は、遺体を家に置いたままで翌日になる時がある。これを「坐夜」と呼ぶ。篤信な年長者に故人を守るように頼むことになる。「坐夜」の夜、この年長者は大浄を洗って、故人の家で夜明けまでお線香を供えて、全部の部屋の電気をつけたままで夜明けを待つ。夜の時間を過ごす間に、年長者は遺族に世界の真実、善、美、虚偽、醜悪を語り、ムハンマドの知恵の物語を語り、人々に善行を行うよう説得する。大きな音を立てたり、ギャンブルやポーカーをしたりするのは禁止される¹⁰⁾。イスラムの教義により、遺体を早めに埋葬しないことはよくないと思われるので、特別な理由がない限り「坐夜」はしない。
22. 盖头（ゲイトウ）：ヒジャブのようなもの。女性の故人の遺体をカファンで包んだ後につけられる。
23. 亥亭（ヘイティン）：故人が亡くなった日から始まる記念するための祭礼。
24. 费底耶／伊斯戛特（ヘエディーイエ／イッスゲーテエ）：中国ムスリムの葬送では、故人が生前に怠った礼拝や犯した罪に対して、親族が故人に代わって神に許しを請う贖罪のための罰金の儀式が行われることが多い。それはフィディヤー（al-Fidyah「費提耶」「費底耶」「費達也」）とか「イスカート」（aHsqat、「伊斯戛特」「依斯戛退」）と呼ばれ

9) 「許可、許しをあげる」という意味。

10) 熊坤新、张少云「试论回族丧葬习俗中的宗教因素」、《西藏民族学院学报（哲学社会科学版）》，卷31、第3期、2010年5月、P81。

る。フィディヤーとは、クルアーン第2章第184節と第196節に基づいたもので、故人が生前なしえなかった断食やメッカ巡礼などに対する罰金として、金銭もしくは実物を以て補償し、貧民に施すことである。中国では教派によって罰金の手段が異なる。一つは数人のアホンが円形になって順番にクルアーンを回し読みすることによって贖罪をなすやり方で、「クルアーンを回す」（「転経」）と言われる。もう一つは故人の親族が一定の金額を拠出してアホンが中心になって回していくやり方で、「金を回す」（「転銭」）と言われる。両者を合わせて「フィディヤーを回す」（「転費底耶」）と呼ばれる。カディーム派では、前者の方法を採用している。クルアーンの回し読みの方は金銭がかからないように見えるが、実際はアホンたちをもてなす宴会などに多くのお金が必要なため、かなりの出費になる。イフワーン派からこの慣習はクルアーンの教えに反するとして、徹底的な批判を受けた¹¹⁾。循化県に暮らしているカディーム派と自称するムスリムは「フィディヤーを回す」という前者を採用している。しかし、同じ葬礼で金とクルアーンを両方者とも使わず、金やクルアーンの一つを選んで、「転費底耶」を行う。中年（50代くらいから）になるときから、「費底耶／伊斯夏特」のための金を貯めることが始める。亡くなった後、親族がこの貯金を故人の葬礼と亡くなったときに行われる葬礼と亥亨（祭礼）費用に使う。葬礼の後にまだ貯金の余裕があれば、これ以降の式年祭の費用になるが、ない時は親族の金を使うことになる。

25. 尔埋力（エメリー）：宗教の功績と成果の意味であるが、北京の周辺地域で暮らしている回族は「亥亨」のことを間違って「尔埋力」と呼ぶ。

第二節 遺言

一. 亡くなる前に：

まずは遺言を伝える¹²⁾。一般的に、遺言は二つの種類がある。

11) 丸山鋼二『中国におけるイスラム教教派』、1999年、P139。

12) ムハンマド・イブンの言葉により、「重病中のイスラム教徒は、余命2日であろ

一つは、アホンに対して亡くなる人の隣で「討白」¹³⁾を暗唱するように依頼すること、その人の罪の赦しをアッラーに祈ること、そして本人が過去に罪だと思われることを告白することである。

もう一つは、他人に「口喚」¹⁴⁾をもらう・あげることである。つまり、他人に許可や許しを求めることとあげることを指す。他人に悪いことをした「後悔」があれば、亡くなる前にその人からの「許し」をもらうことを望む。また、自分に悪いことをした相手には「アッラーのところに帰る前に、君を許すことにしました」といって「恨み」をなくすことを認める。そして、「口喚」をすることで、「後悔」と「恨み」になった理由を説明し、誤解や疎遠を解消し、お互いを許し合い、幸せに過去を終わらせると思われる。

二. 亡くなるとき：

ある人に死期が迫っている時、その家族は関係が深いモスク¹⁵⁾に連絡し、イマームたちに自宅に来訪してもらう。臨終の際に、自分がムスリムであることを自覚させるために、イマームが臨終者の隣に「清真言」¹⁶⁾を唱えさせる。ただし、本人の健康状態が悪く、自分自身で朗読できない場合には、アホンや家族が代行する。

ゝる限り、遺言書を残す必要がある」という教えがあるが、実はいつでも可能という。もしアホンがいない場合に、家族、友人でも可能である。

13) 討白：葬礼用語19。

14) 口喚：葬礼用語20。

15) 女性の場合には「よく世話されていたモスク」、男性の場合は「よく通じているモスク」であるが、議論する時もある。例えば、よく世話されていたモスクと一番近いモスクが異なる場合に、家族によってモスクを決める。

16) 「アッラーのほかには神なし。ムハンマドはアッラーの使徒なり」という内容である。

第三節 着水¹⁷⁾

1. 亡くなった当日に

原則として、息を引き取ったときから埋葬まで24時間以内に完成させるべきであるが、遠いところに住んでいる血縁者を待つために、24時間を少し超えることもたまにある。

人が亡くなったら、簡単に水で汚れをふきとって、故人の裸身に拜毡¹⁸⁾をかぶせ、親族が最後の対面をするため、換気しやすい部屋に置き、部屋にある一番高い机の上に横にする。何人かの女性の親族は遺体の前で着水をするまで泣いている、それは血縁関係がある者に限らない。

死者は頭を北に向け、足を南に向け、顔をメッカの方向の西に向けて、最後の礼拝の前に着水する。故人は、男性の場合、アホンによって着水される。女性の場合には、篤信な年配の女性によって着水される。

亡くなった日、着水の前に、故人のために祈ることである。イマームとアホンに先導されて、マンラー¹⁹⁾や全ての男性の親族は一緒に「アッラー！アッラーの信徒、わたしたちの姉妹・兄弟が君のところに帰れるようになった。彼女・彼が出発する前に、わたしたちは彼女・彼の代わりに、彼女・彼に最後の大浄してあげことを許してください。」などという内容の「都哇（ドゥワー）」²⁰⁾をする。都哇して終わる時に、葬礼のためにいる人たち全員と一緒に両手のひらを上向きにして胸の前にあげて「アッラー！故人を守ってください、みんなを守ってください」などの話を聞えない程の低い声で祈祷する。これを「接都哇」と呼ぶ。

以下、女性の場合を例として説明する。

17) 着水：葬礼用語7。

18) 拜毡：葬礼用語8。

19) モスクでイスラーム諸学を学ぶ寄宿学生のことを指す。

20) 都哇：葬礼用語5。

2. 使用する水の注意点：

遺体は、神聖で不可侵なので、故人を最後に清める水はモスクの水をバケツで家まで運ぶことを要求されるが、現代においては、自分の家にある水道管からバケツに受けて地面に置かなかった水道水も使用可能になってきたが、できればモスクからの水を優先的に使う。同時に、体を洗淨する水は、冷水ではなくぬるま湯である。

なぜぬるま湯でなければならないのか。理由としては、遺体は感覚がないと思われるかもしれないが、死者の霊はそこにあるという。そのため、彼女は水の温度を感じられるという。故人を埋葬する前に、身体は他の生ある者と同じ権利を持っていると思われる。

3. 手順：

まず、一般的に、3人くらいの女性が着水を行う年配の女性の助手を担当する。1人が湯瓶214本を満たし、1人が遺体や遺体を洗淨する人の手に持つタオルに水を注ぎ、もう1人が遺体を洗淨する。

助手を選ぶときには、故人の家族が選択の対象となり、特に故人の母親、娘と義理の娘は、体調不良で入水できない場合を除き、優先的に対象となる。故人に着水を与えることは、故人への一種の追悼と敬意であるだけでなく、同時に、着水する人も塞瓦布²²⁾を抱き寄せることができると信じられている。

洗淨水の準備ができたなら、遺体を水撐²³⁾の上に横にして、正式に着水が始まる。まずは湯瓶に水を入れる。左手で湯瓶を持ち、右手でバケツの水を湯瓶に入れる。湯瓶に水を入れた人は、遺体や遺体を洗淨する人の手に水を注ぐ人に水を入れた湯瓶を渡し、渡される方は両手で受けながら「バスマラ」²⁴⁾を暗唱する。次に、直接遺体を洗淨する人は、通常の女性大

21) 湯瓶：葬礼用語16。

22) 塞瓦布：葬礼用語12。

23) 水撐：葬礼用語18。

24) (アラビア語：البِسْمَلَةُ ラテン文字転写：al-basmalat) は、アラビア語の定型句、
بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ (/bi-smi llāhi r-raḥmāni r-raḥimi/) のことを指す用語である。〃

浄小浄の手順に従って遺体を洗い始める。同時に、「バスマラ」と「シャハーダ」²⁵⁾を唱え続ける。この過程で湯瓶は地面に置くことができず、その意味で、水道水の使用も同じである。

同時に、遺体を石鹼で洗うことはできない。なぜなら、回族の人々は一般的に、石鹼にはラードが含まれていると信じているからであり、また、シャンプーには香りがあり、故人の体を汚し、浄化の目的を達成できないため、シャンプーも使用禁止になる。シャンプーと石鹼の代わりにアルカリが使用される。アラブやインド、パキスタンなどからの輸入品の無香性の石鹼を使うこともある。

洗った後に、故人の体に水滴がないことを確認しながら、口と肛門にカリウムミョウバン²⁶⁾と麝香²⁷⁾を入れる²⁸⁾。最後に、新しいまたはきれいな白いカ凡（カファン）²⁹⁾で故人の体を拭いて覆い、手、足、頭を縛る。

その後に、遺体が安置されていた部屋のカーテンが引かれ、ドアのカーテンが下がったとき、遺体の前で泣いている女性を含む、部屋と外にいるすべての人は沈黙しなければならない。

最後に、最後の礼拝、站者那则（ゼンナゼ）³⁰⁾の時間が始まる。この時は、遺体を普段の寝台に置き、その近くでアホン達簡単な礼拝をする。

2020年までは、この礼拝が終わり次第、者拿咱（ゼナザ）³¹⁾に遺体を横たえ、男性の親族や摘麻提（ジェマッテ）³²⁾がモスクに運んでいた。モス

ㄨこの定型句の日本語訳としては、たとえば、「慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において」などがある。この定型句は、イスラム教の聖典クルアーンの悔悟を除くすべての章の冒頭に用いられている。

25) (信仰告白、アラビア語：شهادة Shahāda) は、イスラム教の五行のひとつで、「アッラーの他に神はなし。ムハンマドはアッラーの使徒である」。

26) 抗菌と防腐の効果がある。

27) 防虫の効果がある。

28) 口と肛門ではなく、カファンの上にそのまま置く場合もある。

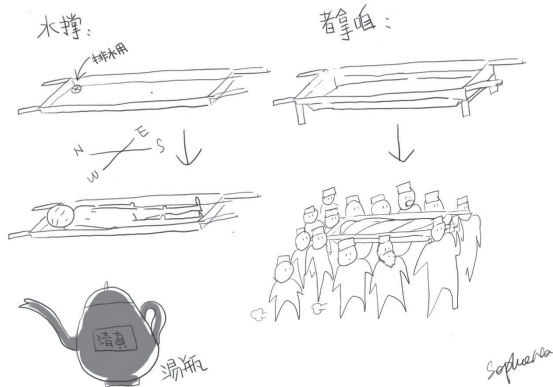
29) カ凡：葬礼用語 9。

30) 者那则：葬礼用語 14。

31) 者拿咱：葬礼用語 17。

32) 摘麻提：葬礼用語 6。

クに着いた後に、アホンやモスク内の男性と全員と一緒に正式に礼拝をする。この礼拝も站那則と呼ぶ。



第四節 埋葬

1. 墓室について

幅約1メートル、長さ約2メートル、深さ約2メートルのピットを掘り、メッカ神殿の方向の側面に小さな穴口³³⁾を開けておく。

2. 埋葬する手順：

着水した後、故人の遺体を墓地に運ぶ。一般的にムスリムは土葬で遺体进行处理する。

一方、普段は4人で者拿咱を運ぶが、場合によっては8人で運ぶこともある。ムスリムは故人の近くを歩くことはスンナだと考えており、故人を墓まで運ぶことに参与すれば、罪を取り除くことができると信じている。そのため、摘麻提の男性全員は運ぶ者にならなくても、運ぶ者の周りを取り囲んで一緒に歩く。全員は穏やかで厳肅な雰囲気です速足で歩く。

墓園に入るところで、すでに安眠している他の故人全員に「アッサラー

33) 墓室の出口ではなくて、魂の出口だと思われる。

ム・アライクム（あなたがたの上に平安がありますように）」と挨拶する。

お墓に着くと、まず墓室内に防虫剤（ボルネオール、樟脳など）を周りにまき散らす。墓の口から2人くらいの人が入る（入る必要がない時には入らないこともある）。その後は、故人が女性の場合は、墓外にいる人が墓口の上に布で覆って、者拿咱（ゼナザ）から遺体を出し、墓室に移動する。最初に墓に入った人は外の人からゆっくりと遺体を渡され、墓室内に遺体を横にする。故人の頭を北に向け、足を南に向け、顔をメッカの方向の西に向けておく。その後に、墓室に入った人が墓室から出る。最後に石や土で墓の口を閉じる。

その後、1人のアホンが、死者の頭の方角に墓の泥を3つ握り、クルアーンのテキストを唱える。内容は決まっていないが、よく唱えられるのは以下の部分がある章である。

3. 唱える内容：

1. 「かれこそは、泥から、あなたがたを創り、次いで（生存の）期間を定められた方である。一定の期間が、かれの御許に定められている。それでもあなたがたは疑うのか」。(6：2)
2. 「われは、泥からあなたがたを創り、それにあなたがたを泥に戻す、また泥から復活させる。」(20：55)
3. 「言ってやるがいい。「神が、あなたがたに生を授け、それから死なせ、それから復活の日に、あなたがたを召集なされる。それについて疑いはない。だが、人びとの多くは、これを理解しない」。」(45：26)

埋葬式の最後に、土で墓を充填する。1人が疲れたら、地面にシャベルを一旦置いて、もう1人が拾い上げて再び作業を続ける。

4. 葬礼の融合

元々、カディーム派とイフワーン派は互いに偏見を持ち、また交通もあり便利ではなかったという色々な理由で距離感があった。近年、中国に

における「新型城镇化政策」³⁴⁾に伴い、人口の移住も加速している。

そのため、カディーム派人口が多い都市周辺地域（循化县など）からイフワーン派が集住している西寧市（青海省省会）に移住することもかなり増えている。都市で同じ街に共同生活したり、通婚したりすることも増えてきたことにより、宗教習慣の融合も加速していると感じられる。例えば、カディーム派が暮らしている循化县においては、埋葬式の当日以後、カディーム派の女性親族は大・小浄を持って墓参りできる。一方で、イフワーンが暮らしている西寧市では、女性親族は墓参りすることが元々禁止されていたが、近年、「禁止」ではなく「提唱ではない」になった。つまり、墓参りに行きたい場合にはいけることになってきたという。

第五節 亥亭³⁵⁾

1. 亥亭の期間について：

最初は、故人が亡くなった日から3日間、7日目（頭七³⁶⁾）、14日目（二七）、21日目（三七）、28日目（四七）、35日目（五七）、40日目、42日目（六七）、49日目（七七³⁷⁾）に行なわれる。

それ以後、百日祭と毎年恒例の祭（亥亭）が行われる。その中で、3周年祭が一番重要だという。

2. 亥亭を行う理由：

ある地域で、「故人の霊は40日間この世にいるから、霊を見送るために

34) 中国政府当局は、都市化を「城镇化」（チェンジェンハウア）と呼ぶ。「城镇」とは「城市」（都市）及び「鎮」（省、市、県に次ぐ中国地方政府の行政区分で、非農業人口が70%以上の小規模な街を指す。）の両方を含むものである。「鎮」は中国独特の概念である。

35) 亥亭：葬礼用語23。

36) 中国語で「七」と「期」の発音が同じであることで、「〇期」と使われる場合もある。

37) 「尽七」、「尽期」と呼ばれる場合もある。

尔埋力（エメリー）³⁸⁾をする」という説があるが、青海省のムスリムの間にはこの説が強く否定されている。なぜならば、一つの原因は肉体が死後、霊はこの世に残るとするのは一般的に「悪いジン³⁹⁾のようなものになる恐れがある」と認めているので、この説を納得できないという。もう一つの原因は亥亭を行う目的として青海省においては「故人のために、故人が生前なしえなかった断食やメッカ巡礼、礼拝などに対する贖罪である」という理由で亥亭が行なわれる。つまり、費底耶／伊斯戛特と同じ意味になったという。

3. 亥亭のやり方と料理：

男性全員が遺体を墓園まで運んでいくと同時に、家にいる女性たちは遺体を置いた部屋を掃除して、線香を供える。その後、翌日にくる人たちのための食事の材料を用意する。また、庭に大きい鍋を準備する。

夕方、マグリブ⁴⁰⁾が終わって、イマームとアホンたちはモスクから故人の家に戻ってきて、一緒にクルアーンを朗読する。その人が亡くなった日から49日目まで、1, 3, 5…のような単数の日目の夕方に同じ朗読をする。

葬礼の翌日から毎朝、アホンたちと故人の男性親族は一緒に墓参りに行く。このような墓参りは40日間続く。墓園から帰ってから故人の家で、イマーム、アホンたちはクルアーンを一緒に朗読する。

墓園から帰ってきたら、アホンと数人の親族にヤギや牛の生贄を供出する。全身の血を全て地面に捨て、肉、頭などを庭にある大きい鍋で茹でる。肉の大部分は葬礼を手伝ってくれている人全員に与える。

同時に、ある人たちは「油香（ユウシャン）」を油で揚げ、「花卷（ファージュアン）」と「馒头（マンート）」を蒸すこともある。普通は、近所

38) 尔埋力：葬礼用語25。

39) アラブ世界で人のように思考力を持つとみなされ、人にあらざる存在として、精霊や妖怪などの超自然的な生き物の総称である。

40) 日没後するすぐ前にやすべき礼拝のこと。

で一番経験がある年配女性に任せる。

残った部分の肉、頭部の肉、舌、春雨、じゃがいも、ユウガオ、ウィートベリーの材料を使い、大きな鍋で、「碗菜（ワンセイ）」という料理を作る。一部は全員のご飯になり、一部は布施用になる。

食用の牛、ヤギのホルモン、ネギを細かく切って、油、小麦粉などと一緒に、洗浄した大腸に入れたものを「肉腸」と呼ぶ。油と小麦粉を洗浄した小腸に入れたものを「面腸」と呼ぶ。この二種類の腸を茹でて、20cmくらいの長さで分ける。

最後に、先ほど頭を取り除いてゆでた、身体部の肉を小さく分ける。分けた肉、油香、花巻、馒头、肉腸、面腸を一つずつ袋に入れて、この袋と一緒に一皿の碗菜を葬礼に手伝ってくれる人全員に布施し、貧しい親族や隣人に優先的に与えられる。亥亭により参加者は多忙なので、常に一つの場所にいないわけではない。そのため、故人の親族の子供たち（普通は故人の孫など）が、各参加者の家まで運ぶ役割を任せられる。

ここで全ての肉を使うわけではなく、49日目まで料理に使う分を残しておく場合が多い。もし足りない時はスーパーなどでハラール認証取得した肉を買い足す場合もある。ただし、布施用の肉には、生贄の儀式を経た肉のみ使える。

第六節 「ゼロコロナ」時期の変化

コロナ水際対策により、2020年1月24日からモスクで礼拝することが禁止されたので、着水用の水はモスクから運んでくることも難しくなり、徐々に水道水を使うようになった。また、家での簡単な礼拝が終わったら、直接墓園まで運ぶようになり、2020年2月から2022年4月までは、站者那則などをモスクで行わず、墓園でするようになった。

地元の出身ではない人は、亡くなった後、1日で到着できる距離であれば、必ず家族によって車で故郷の墓園に連れ戻されなければならない。ただし、2022年4月から6月初めまでと、2022年8月12日以後、西寧市内、

各州、県などから出入りことは禁止されることになった。そのため、人が亡くなったときには現地で全ての葬礼礼儀を行い、現地にある墓園で埋葬しなければならないことになった。

さらに2022年4月からは、死者が出た日に、遺体を埋葬する人と故人の男性家族しか墓園に入ることが出来なくなり、全員で站者那則をすることも不可能になった。アホンが遺体を埋葬する前にクルアーンの第20章「ター・ハー章」・55節を唱えて、簡単に埋葬式を行う。この時、参加人数が10人を超えると超えた分の人は入園すらできず、その後はすぐに墓園から出なければならないという。

2020年から現時点まで、全てのモスクは封鎖され、モスクに暮らしているアホンとマンラ以外の人は立ち入り禁止になっている。コロナ対策の原則として、自宅での多人数の集会や活動も禁止されている。しかし、2022年4月まで、西寧市は家での集会などが行われた場合に隣人に通報されると警告、罰金などの罰があったのに対して、循化県では、亥亭はいつものように行われていたので、都市の西寧市より集会や活動の禁令があまり厳しくなかったことがわかる。

2022年4月から、循化県でもオミクロン株陽性患者が検出され、家から出ることも禁止されるようになった。肉、野菜などを販売する場所と種類も決められている。そのため、生きた牛やヤギ、他の野菜の購入は困難になり、いつものように亥亭を行うことも不可能になってきた。

また、他人の家を訪問することも厳しく禁じられ、アホンたちが故人の家で毎日クルアーンを朗読することや、隣人や親族全員で亥亭をすることも不可能になってしまった。

参考文献

- ① 丸山鋼二「中国におけるイスラム教教派」、『文教大学国際学部紀要』11 (2) 号1999年、P139、https://bunkyo.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=3825&file_id=37&file_no=1。
- ② 熊坤新、張少雲「試論回族喪葬習俗中的宗教因素」、『西藏民族学院学报（哲学社会科学版）』，卷31、第3期、201005、P81。

- ③ 今中崇文「『共生』のために守るべきものとは：中国・西安市の回族による宗教実践を事例として」、『境界研究』5号、2015年。<https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/61167/1/06Imanaka.pdf>。
- ④ 澤井充生『現代中国における「イスラーム復興」の民族誌』、明石書店、2018年。